

特集

学生の答え，ちゃんと待てますか 今こそ知りたい ファシリテーションの心構え

日本では 90 年代以降，「ファシリテーション」という言葉が急速に流行しました。企業での会議やワークショップなど，「話し合い」が必要な場において，参加者のより活発な議論，意思決定のために必須のスキルとみなされています。

その後，教育界で，アクティブラーニング，学習者主体の教育，というパラダイムシフトが叫ばれ始めることに連動し，看護教育でも，グループワークやシミュレーション教育など，教員がファシリテーターとしての役割を求められる機会は増えてきました。

しかし，教員が想定して実践している「ファシリテーション」は，本当に学生の思考を促し，自発的な思考を促すものになっているのでしょうか。形式的なアクティブラーニングであっても，実際は教員の想定する答えに導く介入をしていないのでしょうか。

今特集では，看護教育の現場において，ファシリテーター型の教員が重要である理由，学生が自らの思考を語ることを「ちゃんと待つ」とはどういうことか，ファシリテーターとしてあるべき姿勢と，実際の「ファシリテーション型授業」の取り組みを紹介します。